



三角パートナーシッププログラム

ファクトシート

概要

国連は、2014年に開催された第1回PKOサミットの成果を受け、平和維持活動(PKO)要員に対する訓練を通じ、PKOをより即応的・効果的に行うことを目指し、2015年に三角パートナーシッププログラムを立ち上げました。東アフリカでの工兵(施設)分野を対象とした重機操作訓練を皮切りに、今では施設分野のみならず、医療や情報通信分野の訓練も行っています。訓練対象地域は、アフリカのみならず、アジア太平洋地域にも拡大しており、多くの国々のPKO要員に、英語やフランス語で訓練を提供しています。



目的

三角パートナーシッププログラムは、①PKO要員派遣国、②支援国、③国連の三者が共同で取り組む、国連のPKO能力構築事業です。国連が訓練を企画・立案し、支援国が教官の派遣・装備品の提供・財政支援などを行うことにより、PKO要員派遣国の要員や部隊に対し訓練を行っています。訓練を通じてPKO要員や部隊の能力を高め、PKO活動をより効果的に行うことを目指しています。

訓練の特徴



- **PKOの課題解決に直結:** インフラが脆弱なPKOの現場では、活動は容易ではなく、毎年100人を超えるPKO要員が活動中に亡くなっています。道路などのインフラ整備、PKO部隊の指揮命令のための情報伝達の円滑化、迅速な医療の提供は喫緊の課題です。安全にPKO活動ができる環境を整えるための訓練を行っています。

- **優秀な教官:** 経験豊富で専門性の高い教官を招くことにより、訓練生は、単なる技術や知識だけでなく、様々なノウハウを獲得することができます。



- **最新技術の習得:** 支援国からの財政支援により、PKOの現場で必要とされている重機、標準的な医療機器、最新の情報通信機材など、必要な装備品を整え、実践的な訓練を提供しています。



- **PKO要員派遣国自らの訓練実施能力強化:** それぞれのPKO要員派遣国が、自ら必要な訓練を行うことができるよう教官養成コースを提供し、各国の国内における教育の中核となる教官の育成に寄与しています。

- **多様な訓練参加者:** できる限り様々な場所で訓練を開催することにより、多くの国から教官・訓練生が訓練に参加でき、参加者間で交流し、相互に学べる環境を醸成しています。

プログラムの効果



PKO要員派遣国

自国単独では実施が困難な専門性の高い訓練を受けることができ、要員及び部隊に高い能力を身につけさせることができます。また、教官養成コースを修了した要員を中核として、自国で最新のカリキュラム、教材を活用した訓練を行うことができます。



支援国

専門家や教官の派遣、教育訓練施設の提供、財政支援などを通じて、プログラムに貢献することができます。また、PKO要員派遣国の要員及び部隊の育成に協力することで、PKO要員派遣国とパートナーシップを結ぶ機会となります。



国連

過酷な環境下でも活動できる要員及び部隊を確保することにより、迅速な部隊展開、質の高いPKO活動が可能となります。また、この三角パートナーシッププログラムは、施設、医療、情報通信分野のみならず、PKOが抱える様々な課題の解決にも応用できます。





これまでの歩み

2014

- 各国首脳が参加した第1回 PKO サミットにおいて、三角パートナーシッププログラムの立上げについて発表

2015

- 重機操作コースの試行訓練をケニアで実施(日本が教官を派遣)

2016

- 初級重機操作コースをケニアで実施(日本が教官を派遣)
- 重機操作の教官養成コースをケニアで実施(スイスが教官を派遣)
- ウガンダ・エンテベに置かれている国連通信学校において女性アウトリーチコース(女性要員のみを対象とした情報通信分野の訓練)を開催

2017

- 重機操作コースをケニアで実施(日本が教官を派遣)
- 施設工程管理コースをケニアで実施(ブラジルが教官を派遣)

2018

- 中級重機操作コースをケニアで実施(スイスが教官を派遣し、アフリカ出身の補助教官が支援)
- フランス語による重機操作の教官養成コースをケニアで実施(スイスが教官を派遣)
- 初級及び中級の重機操作コースをケニアで実施(日本が教官を派遣)
- 施設工程管理コースをケニアで実施(ブラジルが教官を派遣)
- 重機操作コースをベトナムで実施(アジアで初開催、日本が教官を派遣)
- 国連通信学校において女性アウトリーチコースを開催

2019

- 初級及び中級の重機操作コースをケニアで実施(日本が教官を派遣)
- PKO 要員派遣国の要請に基づく出張型の重機操作コースをウガンダ及びルワンダで開催(日本及びスイスがそれぞれ教官を派遣)
- 重機操作コースをベトナムで実施(日本が教官を派遣)
- 施設工程管理コースをアフリカ・アジア太平洋地域の研修生に対しケニアで実施(ブラジルが教官を派遣)
- 重機整備コースをブラジルで実施
- 国連通信学校において情報通信技術の教官養成コース及び女性アウトリーチコースを開催
- 野外衛生救護補助員コースをウガンダで実施(初開催、国連職員が教官を務めたほか、ベルギー、ドイツ及び日本が教官を派遣)

2020

- 重機操作の教官養成コースをベトナムで実施(日本が教官を派遣)
- フランス語による重機操作の教官養成コースをモロッコで実施(モロッコが教官も提供)
- 2020 年に計画されていたその他のコースは新型コロナウイルス感染症の世界的流行により中止
- 施設分野及び情報通信分野に関するオンライン教育プログラムの開発に着手
- 国連通信学校が、国連平和活動情報通信学校に改称

施設分野の訓練

- アフリカ、アジア・太平洋のPKO要員派遣国から 508 人の工兵要員が訓練に参加。
- 日本、スイス、ブラジルが、支援国として教官の派遣、装備品の提供、財政支援で協力(日本の教官は、陸上自衛隊から派遣)。
- ケニア、ウガンダ、ベトナム、ルワンダ、モロッコが、訓練施設を提供し、訓練に必要な業務を支援。
- 現在 5 つのコース(重機操作(初級、中級、教官養成)、重機整備、施設工程管理)を英語及びフランス語で提供。
- 修了生はすでにマリ(MINUSMA)、コンゴ民主共和国(MONUSCO)、レバノン(UNIFIL)、南スーダン(UNMISS)及びソマリア(AMISOM)へ派遣され活躍。

情報通信分野の訓練

- 2015 年以來、112 か国約 6,500 人(うち女性 12%を含む)の軍事及び警察要員が訓練に参加。
- 6 回の女性アウトリーチコースにアフリカ、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカから 54 か国 177 人の女性将校が参加し、23 人の修了生が PKO に派遣され、特に、アフリカにおける国連ミッション(ソマリア(UNSO)、マリ(MINUSMA)、中央アフリカ共和国(MINUSCA)、コンゴ民主共和国(MONUSCO))に大きく貢献。
- 日本、カナダ、デンマーク、フランス、ウガンダ、NATO が、教官の派遣や装備品の提供、技術サポート、財政支援などで協力。

医療分野の訓練

- 2019 年 10 月に初めての野外衛生救護補助員コースを国連、ベルギー、ドイツ、日本(陸上自衛隊)から教官の派遣を受けて実施し、コンゴ民主共和国(MONUSCO)と南スーダン(UNMISS)で PKO 活動を行う 29 人の軍事要員が参加。
- 日本とイスラエルから財政支援を受け、訓練生には訓練終了後現場で使用できる救護用資器材を供与。

現在提供している訓練内容



施設工程管理

資材や作業を適切に管理して計画的な施設作業をするための工程管理を教育



作業ニーズ調査と設計

現場の状況に応じた施設作業の計画立案を可能にする現地調査や宿营地設計の方法を教育



重機操作

道路の補修、宿营地の敷地造成等に必要な重機の操作方法、工事の基本的な要領を訓練



重機整備・修理

重機の故障を予防するための整備方法や故障時の修理方法を訓練



教官養成

自国での訓練を可能にするために、教育や訓練の要領について訓練



野外医療

受傷後適切な医療機関に搬送されるまでの間に必要な野外医療に関する知識や技術を訓練



情報通信

PKO で使用している情報通信機材や宿营地警備システムを国連平和活動情報通信学校に常設して訓練

三角パートナーシップの将来

- 三角パートナーシッププログラムは、PKO を強化する重要な取組として多くの国連加盟国に認識されています。
- 持続可能な事業とするために、従来の実地訓練に加え、オンラインを活用した訓練を新たに導入し、三角パートナーシッププログラムの充実・発展を図ります。
- そのための人材、装備品の提供、財政支援などあらゆる面での加盟国からの支援を歓迎します。

三角パートナーシップチーム

三角パートナーシップチームは、本部、地域事務所、フィールドを含む国連事務局の全てのオペレーション(活動)の支援を担当する国連オペレーション支援局の特別活動部に所属しています。チームについてのより詳細な紹介(英文)は、下記のウェブサイトまで。

<https://operationalsupport.un.org/en/triangular-partnership-programme-tp>